

第六回

日本マイクロソフト



正午過ぎ、カウンターには社員の列ができていた。

「普通の社員食堂ならすぐ食事を出せるようにすると思います。しかし、One Microsoft Cafeでは、あえて待つ時間をつくっているんです。カフェのスタッフと社員が話したり、待っている列で隣り合った知らない社員と知り合ったりできるように。Face to Faceの交流というものを大切にしています」と語るのは社長室の金澤聖訓さん。

「品川オフィス勤務の2500人の従業員のうち、営業系の6

割が席をもたないんです。ノートPCやスマートフォンを持ち歩いているので、どんな場所でも仕事をすることが出来ます。このスペースで会議も頻繁に行われていて、ソフトラームを食べながらディスカッションする風景も見られますね」

朝の雰囲気のパイクニックエリアから夜を意識したスペースまで。さらにLEDの照明の高さは一様でなく、床には段差もある。その空間の多様性が遊び心を刺激し、これまでの仕事空間の有り様を変えている。

「Oneにはひとつになるという意味が込められています。当社も様々な事業を行っているため、お互いの仕事を知らない縦割りの弊害がありました。このカフェができたことでそれも解消されました。社員の健康を考える食堂であると同時にコミュニケーション・スペースであるという理念が実現しています」

外回りの営業が、最近ではカフェが見たいという顧客のために連れてくるケースも増えているという。このコミュニケーションはどこまでも拡大中だ。

多様性を演出するカフェが社員を“ひとつに”する

- 1 朝の雰囲気をイメージしたピクニックエリア
  - 2 社内の部活動「農業クラブ」がカフェ内でも活動中
  - 3 ベリヤードや個性的な椅子が並ぶ空間は、夜にぴったり
  - 4 食器はすべてル・クルーゼを使用。その色の鮮やかさがアクセントに
  - 5 その名前には縦割りではなく、組織をひとつにするという理念が込められている
  - 6 野菜たっぷりのヘルシーメニューは毎日7つのプレートから選ぶことができる
- 「日本マイクロソフトの社員食堂 野菜たっぷり!デリレンビ63」(キラジェンヌ)が好評発売中。  
\*一般の方は入場できません